経営比較分析表（令和4年度決算）

茨城県　鹿嶋市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**1か月20m³当たり家庭料金(円)**	
-	59.36	79.72	3,905	

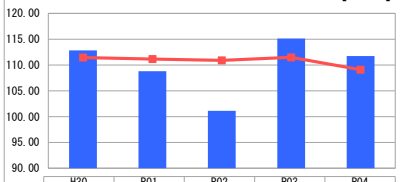
人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
66,274	106.04	624.99
現在給水人口(人)	**給水区域面積(km²)**	**給水人口密度(人/km²)**
52,637	106.04	496.39

グラフ凡例
- ■ 当該団体値（当該値）
- ー 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

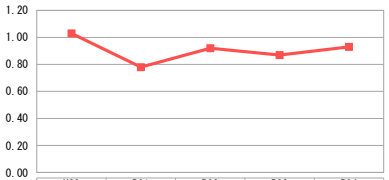
【108.70】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	112.83	108.81	101.13	115.12	111.75
平均値	111.44	111.17	110.91	111.49	109.09

②累積欠損金比率(%)

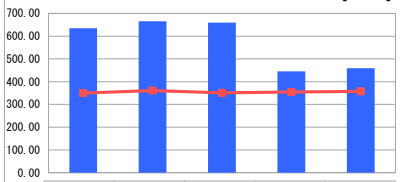
【1.34】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	1.03	0.78	0.92	0.87	0.93

③流動比率(%)

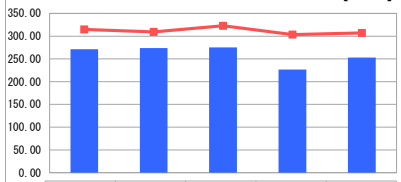
【252.29】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	634.78	665.21	659.41	445.49	458.82
平均値	349.83	360.86	350.79	354.57	357.74

④企業債残高対給水収益比率(%)

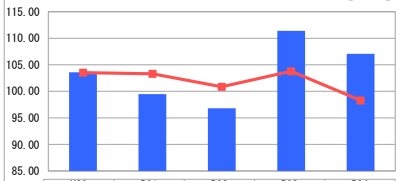
【268.07】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	271.43	273.69	275.17	226.58	253.09
平均値	314.87	309.28	322.92	303.46	307.28

⑤料金回収率(%)

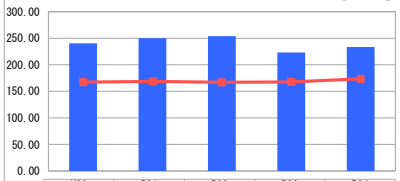
【97.47】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	103.59	99.47	96.82	111.41	107.06
平均値	103.54	103.32	100.85	103.79	98.30

⑥給水原価(円)

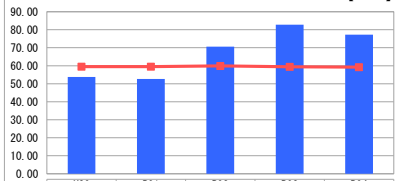
【174.75】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	240.43	250.17	254.06	223.09	233.50
平均値	167.46	168.56	167.10	167.86	173.68

⑦施設利用率(%)

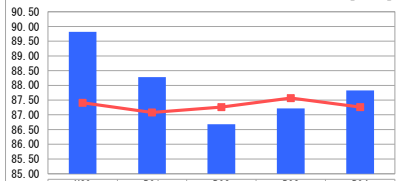
【59.97】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	53.75	52.65	70.62	82.81	77.23
平均値	59.46	59.51	59.91	59.40	59.24

⑧有収率(%)

【89.76】

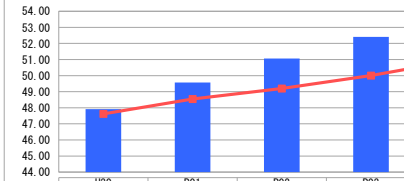


	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	89.82	88.28	86.68	87.22	87.83
平均値	87.41	87.08	87.26	87.57	87.26

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

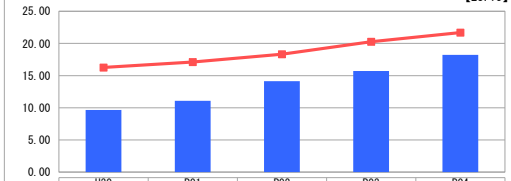
【51.51】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	47.91	49.57	51.06	52.41	53.36
平均値	47.62	48.55	49.20	50.01	50.99

②管路経年化率(%)

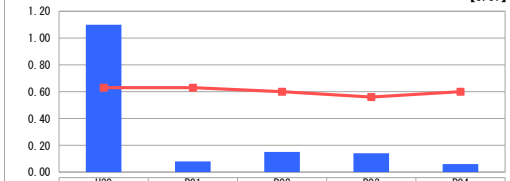
【23.75】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	9.66	11.08	14.14	15.72	18.22
平均値	16.27	17.11	18.33	20.27	21.69

③管路更新率(%)

【0.67】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	1.10	0.08	0.15	0.14	0.06
平均値	0.63	0.63	0.60	0.56	0.60

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①企業などの大口利用者の水需要の増により、数値は令和元年、２年度と比べ改善してきおり、類似団体の平均も上回っている。
②累積欠損金は発生していない。
③工事費の増等による未払金の増により流動負債が増加しているため、令和３年度同様に比率は低下したままである。しかし、類似団体の平均は上回った状態である。
④企業債残高の増により比率は増加したが、類似団体と比べると依然として低い水準のままである。
⑤年間有収水量の減による給水原価の増のため、料金回収率は低下したが、類似団体と比べると高いままである。しかし、これは大口利用者の利用量増によるもののため、これまでの推移を見ると、料金水準は適正と考える。
⑥有収水量の減により、給水原価は増加した。また、類似団体と比べると、依然として高い水準のままである。これは、給水人口密度が低いことから、配水管の延長が長くなり、経常費用が割高となる傾向があるためである。しかし、経営としては黒字が続いているので、現在の水準は適正であると考える。
⑦令和２年度の給水区域の統合により、認可水量を見直したことにより施設利用率は改善してきている。
⑧昨年度に比べて数値は改善したが、これは大口利用者の有収水量の増によるものであると考える。

2. 老朽化の状況について

①数値は年々増加傾向にあり、老朽化が進んでいると考えられる。今後は新たな配水場の建設を予定しているため、数値は改善する見込みである。
②類似団体と比べると依然として低い水準であるが、数値は増加傾向であり、今後も法定耐用年数を超えた管路は増加していく見込みである。老朽管更新計画に沿って計画的に管路の更新を行っていく。
③管路更新率は令和元年度以降低い水準となっており、類似団体と比べても低くなっている。今後は配水場の建設のため同水準となることが予想されるが、引き続き計画的に管路の更新を行っていく。

全体総括

経常収支比率は常に100%を上回っており、その他の指数を見てみても、経営の状況は健全だと言える。しかし、本市の給水収益は企業などの大口利用者の水需要の増減に左右される部分が大きいのが一つの特徴である。令和４年度以降は新たな配水場の建設のため、施設整備に係る投資額が増大しているため、企業などの水需要の動向と投資による各指標への影響は注視していく必要がある。

老朽化については、法定耐用年数を超えた管路は増加の一方であるが、管路の更新率は類似団体の平均を下回っている状況である。老朽管更新計画に基づく計画的な管路の更新を行っていくことが必要である。

今後は、令和９年度供用開始を予定している新設配水場に係る投資額が増大する予定であるため、鹿嶋市水道ビジョンを基に、将来を見据えた計画的な事業運営に努めていく。